

実践まとめシート（2年次）

研究グループ	高等部	実践グループメンバー	久保田、附田、石橋、河内
--------	-----	------------	--------------

実践タイトル	
総合的な探究の時間におけるコキアの鉢植え活動を通したエージェンシー発揮に向けた指導の在り方	
I 問題と目的 本実践は1年次からの継続となる。高等部第3学年の生徒は、1・2年のときに、育てたコキアの鉢を学校周辺の地域に設置する活動を行ってきた。1年次の実践では、市の中心である市役所や図書館などへと鉢の設置範囲を広げたことで、学校のことを多くの人に知ってもらおうと同時に、市役所の環境課の方から「環境美化活動として非常に意義のある取組である」と高く評価された。地域の人と関わりながら学びを深める学習により、生徒たちは自分たちの活動が地域社会の役に立っていることを実感することができた。また、活動初期には受動的であった生徒が、地域との関わりを重ねるサイクルを経て、徐々に能動的な姿勢へと変化した様子が確認された。地域を学び場として学習を積み重ねる経験が、エージェンシー（OECD, 2019）の発揮につながったと考えられた。また、高等部グループの1年次まとめでは、学校と地域の学びのサイクルの重要性に加え、生徒の強みを生かした役割と教師の支援、また、共通の目標に向かう協働など、生徒のエージェンシーの発揮を促す環境設定が重要な要素であると考察された。 本実践で分析対象とする生徒は、学級でリーダー的な存在であり、コキアを用いたプロジェクト学習への意欲が高い。一方で、「何のために、誰のためにこの活動を行うのか」といった目的意識が曖昧になりがちである。自らの「やりたい」という気持ちが先行し、友達との協働意識や、活動を支えてくれる周囲への感謝の気持ちが薄れがちな様子も見受けられる。そのため、学級活動において一人で作業を進めてしまう場面も少なくない。学習意欲の高さは肯定的に評価されるが、周囲の人の見方によっては自己中心的な行動と捉えられることも懸念される。「エージェンシーを考える手掛かりとして、エージェンシーが他者や社会との関係性で育まれる」（白井, 2020）ということや、「エージェンシーとは、単に個々人がやりたいことをやることではなく、むしろ、他者との相互の関わり合いの中で、意思決定や行動を決めるものである」（白井, 2020）ということから、対象生徒の課題に対し、将来的に社会の中で他者と合意形成を図りながら協働し、周囲と適切な関係性を築きながら互いに尊重し合い、成長し合うことができる授業展開が必要であると考えた。 本実践の目的は、学校と地域を学びの場とした学習サイクルを通して、高等部生徒のエージェンシー発揮につながる要素を見出すことである。具体的には、「地域貢献」をテーマとしたプロジェクト学習を展開し、地域の人々と関わる活動を通して「地域のために、私たちは何ができるのか」を考え、学級全体で取り組む学習環境を設定する。その過程において、分析対象生徒が友達や教師、地域の人々の思いを尊重しながら最善の方法を模索し、行動する姿を見取り、学習環境や教師の役割の視点からエージェンシー発揮につながる要素を考察する。	
II 実践方法	
1 対象学級・対象生徒について 高等部第3学年8名の学級で実施した。8名の生徒たちは互いの良さを認め合い、困っている友達を支えるために行動することができる。高等部1年のときから、地域の方々と関わり合いながら学習活動を積み重	

ねてきている。本実践では、リーダーシップを発揮し、学級を牽引する生徒Aを分析対象として選定した。

生徒Aは、学習指導要領の各教科の目標及び内容の段階は高等部1段階を中心に学習している男子生徒である。高等部1・2年のときに実施してきた地域での学習活動（コキアプロジェクト）に非常に意欲的に取り組んできた。積極的にアイデアを出したり、自ら休み時間に必要な準備活動をしたりして、思いを実現するために行動を起こすことができる。一方で、多様な他者の考え方を理解し受け入れることにおいては課題があり、自分一人で物事を進めてしまい、他の生徒の意見がくみ取れずに活動を進めてしまう場面が見られていた。

以上の実態から、上記生徒Aの目指す姿として、「地域貢献を目指した学習活動において、プロジェクトのリーダーとして友達と協力しながら活動することができる」ことと設定し、実践を構想した。

2 実践の手続き

（１）総合的な探究の時間における授業の実施

地域の人と関わりながら探究のプロセスを経て、生徒同士が学びを深めることができる柔軟な授業計画ができることや、横断的・総合的な学習指導ができるため、生徒が日常生活に結び付けて考えることができると考え、総合的な探究の時間における授業で実践した。

以下、具体的に総合的な探究の時間についての留意点を述べる。

- ・実践は、生徒が「探究のプロセス」（文部科学省, 2018）を積み重ねていけるように計画する。

（探究のプロセス：①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現）

- ・地域と連携したプロジェクト学習にする。

期間内に数回、地域の人と直接関わりながら地域の情報を収集したり、課題解決に向けて取り組んだ成果に対して評価をいただいたりするなど、生徒が地域を身近に感じながら学習できるように計画する。

- ・総合的な探究の時間の年間指導計画の目標を参考に、生徒Aの目標を設定した。

生徒Aのエージェンシー発揮につながる観点は、「学びに向かう力、人間性等」とし、実践後の評価をエージェンシー発揮につながる姿として評価する。

【総合的な探究の時間における目標】

① 【知識・技能】年間指導計画より

地域や学校の課題を発見し、課題解決に必要な知識及び技能を身に付けることができる。

【生徒Aの目標】

市役所の職員や地域の方と関わる中で地域貢献活動の内容を見出し、実現するために必要なことを考え、活動することができる。

② 【思考・判断・表現】の目標

情報を整理・分析して、簡潔にまとめたり表現したりできる。

【生徒Aの目標】

説明資料やスライドを、相手に伝わりやすいように工夫しながら作成することができる。

③ 【学びに向かう力、人間性等】の目標

課題に対して、主体的、協働的に問題解決や探究活動に取り組む。

【生徒 A の目標】＝生徒 A のエージェンシー発揮につながる姿

リーダーとしての役割を考え、友達と協力しながらプロジェクトを進めることができる。

3 指導計画

回数	日程	学習内容	地域・サイクル	記録
1	5月1日（木）	・ 高等部全体による総合的な探究の時間についてのオリエンテーション		インタビュー 質問紙
2	5月2日（金）	・ 事前インタビュー調査（プロジェクトに対する実態の把握） ・ コキアの種植え		映像 音声 振り返りシート
3	5月15日（木）	・ 昨年度までの成果を振り返り、今年度のプロジェクトの方向を話し合う。 ・ 「貢献」の意義を全体で確認。 →今年度の方向を学級全体で決める。「貢献とは、〇〇である」 ・ 地域のために何をするか検討。 ※話し合い活動を入れる。		
4	5月19日（月）	・ 昨年度の協力のお礼と、今年度のプロジェクト案を市役所環境課の担当者に報告する。 ・ 今年度の協力依頼をする。（メールで教師を中心にやり取り）	市役所環境課	
5	5月22日（木）	・ 地域貢献活動（コキア育成や環境問題などの知識を学ぶ等）の準備、資料整理などを行う。	サイクル1	
6	5月27日（火）	・ 6月2日（月）市役所訪問の流れを確認する。 ・ 発表デモンストレーションを行う。 ※話し合い活動を入れる。		
7	6月2日（月）	・ 校外学習①で市役所環境課を訪問し、活動の現状を報告する。 ・ 環境課職員からフィードバックをもらう。	市役所環境課	
8	6月4日（水）	・ 校外学習の振り返り。→地域貢献活動の再検討、計画、次に向けた準備を開始する。 ※話し合い活動を入れる。	サイクル2	

9	6月5日（木）	・前時の続き		映像 音声 振り返りシート
10	6月11日（水）	・新しいプロジェクト案について、グループに分かれて話し合ったり、調べたりする。		
11	6月13日（木）	・これまでのプロジェクトの振り返りを行う。 ・中間インタビューの実施。		インタビュー 質問紙 映像 音声 振り返りシート
	6月16日（月） ～27日（金）	・前期産業現場等における実習		
12	7月1日（火）	・学校近くの公園にコキアの苗を植える。（市役所職員が立ち会う）	市役所公園緑地課	映像 音声
13	7月4日（金）	・地域貢献活動準備を進める。 ・コキア鉢を配付する地域の場所や、配付方法を検討する。 ※話合い活動を入れる。 ・校外学習②に向けての準備、発表デモンストレーション。		映像 音声 振り返りシート
14	7月14日（月）	・市役所環境課の職員に活動の現状を報告する。 ・環境課職員からフィードバックをもらう。 ・市内の商業複合施設にコキアの鉢を設置、プロジェクトの説明をする。 ・校外学習②の振り返りをする。	市役所環境課 商業複合施設	
15	7月22日（火）	・5月からの活動の振り返り ・現段階におけるまとめ ・夏休み以降の活動計画。 ※話合い活動を入れる。	サイクル3	インタビュー 質問紙 映像 音声 振り返りシート

(2) 授業構成の工夫 ※昨年度の研究成果を参考

- ・地域と共に学ぶサイクルの設定（市役所や商業複合施設とメールでのやり取り、実際に校外学習で対談）
- ・活動目的の共有（地域貢献活動として、地域の方の役に立ちたい）
- ・役割分担（生徒各々が役割を果たし、学級が一丸となって行う場作り）
- ・教師の介入→生徒主体になるように授業展開を工夫
- ・生徒主体となるような教師の介入の工夫、モデリングなど支援の在り方を検討
- ・話し合い活動の充実 →心理的安全を感じながら、様々な意見交換ができるように配慮

(3) 他教科等との関連付け

話し合い活動の前に、自立活動の授業を行い、「人間関係の形成」と「コミュニケーション」に関する指導を行った。プロジェクトが始動し、大きな方向性を決める実践の初期段階で取り入れた。

	日程	学習内容
1	5月22日	友達の良さや仲間を肯定する言葉掛けについて
2	5月27日	クッション言葉や相手の気持ちに配慮した受け答えの大切さについて
3	6月5日	全体の意見が割れたときの対処方法やリーダーとしての心構えについて

4 評価方法

本実践の目的は、学校と地域を学びの場とした学習サイクルを通して、高等部生徒のエージェンシー発揮につながる要素を見出すことである。本実践では、生徒Aのエージェンシー発揮につながる姿を評価するにあたり、生徒Aの起こそうとする内的な変化（自分の中で実現したいこと）、に加え、外的な変化（他者を意識して変化を起こそうとすること）の視点で見取ることとした。実践の中での生徒Aの起こそうとする変化を見取り、エージェンシー発揮につながる姿を評価するために、以下の方法を用いた。

(1) インタビュー、質問紙（内的な変化）

- ・地域貢献活動に向けた学習意欲や、協働に対する認識の変容を確認することを目的とした。
- ・指導計画の1回目（初期 5/1）、11回目（中期 6/13）、14回目（終期 7/22）で実施した。
- ・生徒Aを対象に実施した。

(2) 振り返りワークシート（内的な変化）

- ・授業後の生徒の地域貢献活動に向けた学習意欲や、協働に対する認識の変容を確認することを目的とした。
- ・学級の生徒全員を対象とし、毎時間、授業の終盤で実施した。
- ・地域への関心や友達と協働できたかどうかなど、生徒が自己評価する内容とした。

(3) テキストマイニング（外的な変化）

- ・生徒Aが、自分の思いだけではなく、他者を意識して変化を起こそうとする様子を見取することを目的とした。
- ・生徒Aが授業で装用したICレコーダーで録音した音声データを文字化し、プロジェクトについて話合う内容の授業（初期・中期・終期）を対象として、KH Coder（樋口, 2018）を用いてテキストマイニングを実施した。

(4) エピソード記録（内的な変化・外的な変化）

- ・テキストマイニングにより分析した友達への発話場面を起点とし、生徒Aが友達に働き掛ける場面のエピソードを抽出した。相互のやり取りの様相をもとに、生徒Aが起こそうとした変化（内的・外的）を見取った。

(5) 総合的な探究の時間の評価（生徒Aのエージェンシー発揮につながる姿の評価）

- ・上記（1）～（4）の結果を基に、生徒Aのエージェンシー発揮につながる姿が確認されたかどうかを評価した。【学びに向かう力、人間性等】の観点における「リーダーとしての役割を考え、友達と協力しながらプロジェクトを進めることができる」の目標を、生徒Aのエージェンシー発揮につながる姿として評価した。

(6) 自立活動の授業記録（生徒Aのエージェンシー発揮につながる姿との関連性の検証）

- ・総合的な探究の時間と結び付けた自立活動の指導が、生徒Aのエージェンシー発揮につながる姿と関連性があるかを検証することを目的とした。
- ・授業記録は、ICレコーダーで録音した音声データや教師の観察より作成した。

5 倫理的配慮

対象生徒が所属する特別支援学校は、在籍児童生徒の学びと成長を保障する他に教育実習や研究の場としての使命も担っており、事前に十分に説明した上で、保護者より研究協力及び成果公開の同意を書面で得ている。また、校内で個人情報の保護をはじめとする倫理的課題について十分に検討した上で本研究の実施と公開にあたっている。

Ⅲ 指導の実際

1 総合的な探究の時間における学習場面について

授業を実践するにあたり、高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編の探究プロセスを参考にした。プロセス4で新たな課題を見出した後はプロセス1に戻り、発展的に繰り返した。

プロセス1 課題の設定	・今年のプロジェクトのテーマや活動内容について全員で考える 
プロセス2 情報の収集	・地域の方にアドバイスをもらう。 （市役所環境課、緑地課、商業複合施設） ・新たなアイデアを共有し合い、活動内容に反映させる。 

プロセス3 整理・分析	・地域の人からいただいた情報やアドバイスを振り返る。 （地域への交渉の仕方に関すること、市役所が協力できること、フォトスポットの高さや形状について など） ・試作品を作り、安全性や危険がないかどうか検討する。 
プロセス4 まとめ・表現	・振り返りを行い、プロジェクトがどこまで進んだのかを確認する。 ・地域の人の評価を整理し、次のプロジェクトに向けて改善点などを話し合う。 

2 自立活動との結び付けについて

集団で話し合い活動をする前に、教師と個別で対人関係の基礎的な内容を学習し、実際に友達との関わりの中で実践できるような展開にした。教師と対話しながら、生徒Aとプロジェクトの進行を振り返り、うまくできていることや課題に感じていることなどを確認した。

実施日	授業の様子	
5月22日(木) 5月27日(火) 6月13日(金)	別室で自立活動の 個別学習を実施	→ 同じ日の別の時間に、学級全体での話し合い 活動を設定
		

3 地域の方との学習について

地域の人とのやり取りの機会を設定し、生徒が市の課題に向き合ったり、主体的に関われたりするようにした。昨年度からつながりのある市役所の環境課に加え、新たに公園緑地課、地域の公共施設に協力を依頼した。

サイクル1 5/19

市役所環境課の職員とメールでやり取りを行った。生徒が今年の活動計画を立て、資料にまとめ、それに対し職員が返答し、さらに内容をブラッシュアップしていった。

【環境課職員からのメール内容】

「植物の鉢は、虫が付く可能性があるため飲食店には適さないかもしれない」

「コキアを題材にしたフォトスポットを作るアイデアは面白いと思った。置き場所に加えて、具体的にどのようなものにしていくのか、大きさや形などを考えてみると良い」

サイクル2 6/2（校外学習①）

校外学習①を設定し、市役所環境課の職員にブラッシュアップした企画案を見ていただき、アドバイスをいただいた。

【環境課職員からのコメント内容】

「君たちが鉢を置かせてほしいと考えている地域の商業複合施設に、直接交渉してみると良い」

「市内の墓地公園で、植物が欲しいとの話があり、環境課の方で植物の苗を提供している。コキアの苗も寄付していただけたら提供可能である」

「フォトスポットに関しては、置いた方はどのような大きさを、雨風に耐えうる強度なのかなど、いろいろ心配な部分が出てくると思う。更に、具体的に資料にして相手に伝える必要性を感じる」

「昨年度、皆さんが市役所に置いてくれたコキアは枯れてしまったが、あの後、私たちの方でコキア小ぼうきを作って地元の方に配付したらとても喜ばれた。皆さんも作って地域に配付したらどうか」

サイクル3 7/1

① 市役所公園緑地課の職員立会いのもと、学校付近の公園にコキア苗を植えた。

【公園緑地課職員からのコメント内容】

「コキアという植物は何年で枯れるのですか？」

「来年も植えることはできるのですか？」

② 市内の商業複合施設に、コキア鉢とフォトスポットを正面玄関付近に置かせてほしいことを企画書にまとめ、提案した。メールで返信が返ってくる。→再度、コキア鉢の設置場所について検討を求められた。

【社員からのメール内容】

「フォトスポットは夜間の時間帯の管理が難しく、天候によっては破損の恐れもあり、商業複合施設内で会議した結果、設置は難しいと判断した。コキア鉢は、自転車置き場の横に置くことで見た目にも楽しいし、駐輪スペース以外の場には駐輪しないでほしいというメッセージにもなるため、置くことを承諾する。置ける場所を提案するので、生徒の皆さんで検討してほしい」

【生徒に提示したメール】

高等部3年生の皆さん・担任の先生方へ

皆さん、こんにちは。〇〇先生から企画書をお送りいただき、〇〇の施設管理部のメンバーで話し合いをさせていただきました。結論を申し上げますと、フォトパネルに関しては、お受けできないという結果をお伝えさせていただきます。理由としては、店舗営業時間が終わった後の夜間の時間帯に、職員が誰もいない状態になり、安全面の管理ができないことが大きな要因です。また、パネルの破損や、倒れた際にお客様がけがをするなど、何か事故が起きた場合、本社は責任をとれないと判断をしたためです。

とてもすてきな企画をしていただきましたが、期待にそえず、申し訳ございません。

ただ、コキアの鉢に関しては、場所を変えて設置することを提案させていただきと考えております。つきましては、写真をご覧いただき、設置ができるかどうかみなさんで考えてみてください。

丸い鉢は、風が強く吹いて転がるのを防ぐため、ひもか何かで固定できるようにしていただきたいのですが、できますでしょうか。また、水やりや肥料をあげるなどの簡単な管理は、こちらの職員で協力いたします。

残念ながらお返事で大変心苦しいのですが、鉢を設置するのかについて、お返事をいただけましたら幸いです。

今後とも、宜しく願いいたします。

6/25（木）〇〇

施設管理部 室長 〇〇より

プロジェクトを進める中で、フォトスポットを地域の公共施設に置こうという案が友達から出てきた。生徒Aは友達と教師とともに企画書を作成して相手に送ったが、難しいと返信がきた。

却下の理由や別の提案を聞いて、「悲しい」、「次は他店に置こう」と発言があることから、提案が却下されたことを事実として受け入れているが、元々のつながりを作ってきた公共施設への関心が薄れていた。生徒Aの「ここがだめなら、次に行こう」という切り替えの早さは良い点にも捉えられるが、その日、生徒Aが公共施設と継続的なつながりを続ける意思や、友達に働き掛ける発言は出てこなかった。

実践者のねらいは、商業複合施設の社員からの「市内で高校生の方が植物を提供してくれるのは初めてのことで」、「(フォトスポットは協力できないが) コキアの鉢を置いてくれることがうれしい」という内容のメールから、地域の人とのつながりを大事にしようとする気持ちが向上することを期待していた。そこで、今回の実践では実践者が介入し、つながりを保つような働き掛けを生徒に行った。

サイクル4 7/14 校外学習②

市役所環境課を訪問し、プロジェクトの中間報告をするとともに墓地公園用の苗ポットを寄贈する。

【環境課職員からのコメント内容】

「ありがとうございます。我々の方で霊園に届けます」

市内の商業複合施設を訪問し、コキア鉢を2つ寄贈する。社員にコキアプロジェクトの活動内容を説明、コキアの鉢を置かせていただき、管理の協力依頼をする。

【社員からのコメント内容】

「コキアの生育に関して調べたり、専門家の方から学んだりして、すごいですね」

「かわいいコキアの鉢を提供してくださってありがとうございます」

「店舗公式のSNSにコキア鉢のことを、ぜひ掲載させてください」

IV 結果

1 インタビュー、質問紙（内的な変化）について

生徒Aを含めた学級全員に、以下の項目に関する質問紙による調査を実施した。その後、インタビュー形式で個別に質問することで、学習活動を通して考えや気持ちの変容があるかを見取った。実践初期から終期で生徒Aの変化を下記に整理する。

【アンケート項目について】

- ① あなたは今年度、総合の学習で、どんな活動をしたいですか？
- ② なぜ、その活動をしようと思いましたか？
- ③ その活動は、誰と協力してやりますか？
- ④ その活動は、何のためにしますか？
- ⑤ その活動で自分がやりたい役割や、やってみたいことはありますか？
- ⑥ その理由は、なぜですか？
- ⑦ その活動について、意気込みや伝えたいことがあれば書いてください。

表1 生徒Aのアンケートの記入結果

設問	初期 5/1	中期 6/13	終期 7/22
①	コキアプロジェクト	壁、見えない壁がある。アクリル板の使用許可をもらうこと、フォトスポットを置くこと。	コキアプロジェクトの続き
②	地域貢献のため	みんながんばっていると思う。Bさんはスライド作り、Fさんは公園チームの代表として。	コキアプロジェクトの続きが好きだから。地域に貢献したいから。
③	先生、友達、地域の方々	友達、先生、地域の方々	友達、先生、地域の方々
④	地域の方々？	地域の人	地域の人、やりたいから
⑤	コキアプロジェクトリーダー？	コキアプロジェクトリーダー	コキアリーダー、あといろいろ
⑥	今までやってきたから	みんなを引っ張っていきたいから	今やっているから
⑦	がんばります。コキアプロジェクト！	アクリル板がどうなるのか、公園の緑地課についての情報が欲しい。この後のプロジェクトの全体像を知りたい。みんな協力してがんばろう。協力が大事なとき。	まだまだこれからもコキアプロジェクトは続く！

- ・項目④について、地域の方々「？」と不確定なところから、地域の人に対する活動であると生徒A自身の中で気持ちが定まった。
- ・項目⑤に関しては、段階を追うごとにリーダーとしてやりたいことが明確になってきたと推察される。

【インタビュー項目について】

生徒Aがアンケート調査に記入したことを踏まえ、他者と協力できた場面について、より具体的に回答してもらった。下の「 」は生徒Aに対して実践者が伝えた内容である。

質問③について 「その活動は、誰と協力してやりたいですか？」

「協力してもらったとき、どんな気持ちになりましたか？」

質問⑤について 「なぜ、その役割をやりたいと思ったのか、理由を話してください」

表2 生徒Aのインタビューでの発言内容

	生徒Aの発言内容
初期 5/1	・去年は学級のみならず協力した場面は、市役所に行った。 ・協力については、役割分担をした。メモを取る人や発表する人、Eさんはスライドで、話す内容を考えてくれた人もいた。HさんとかFさんとか。 ・協力、サンキューって思った。 ・やりたい役割に「リーダー？」と記入したのは、(自分以外の人で)リーダーをやりたい人がいるかもしれないから。そのときは、僕は他の役割をして、この活動に関わっていきたい。
中期 6/13	・調子良い感じがする。 ・地域の人から許可が出ないことや、うまくいかなかったとき、壁に当たっても切り抜けてきている。見えない壁があってもいける。

	・自分たちが使ってもよい場所の交渉や、商業複合施設へ届けたいパネルの材料を教師 B（本校教務主任）に依頼して調達できたこととか。 ・リーダーとして全員を見るのは難しい。 ・自分のチームは見れているし、協力できていると思う。 ・変化した友達がいた。プロジェクトにときめくものがあつたから？何か理由があつたから変わったと思う。 ・チームの仲間に「協力してがんばればいいんじゃない」とメッセージしたい。
終期 7/22	・学級のチームワークとしてはとても良かった。過去最高である。 ・みんなが自分の役割を分かっているし、それに応じた行動をしていた。 ・一部の人、生徒 F から相談があつて、そのときは「何とかなるよ」と前向きに励ましの言葉を掛けることができた。 ・学校の近くの地域に鉢を配りたい。去年もお世話になった郵便局さんとか、図書館さん。 ・フォトパネルが自分の中ではまだうーん、って感じがある。置けるところに置きたい。 ・予測できない壁がプロジェクトの中に出てくる。それがあつても、何とかなる。 ・学級の友達とは十分に協力できているので、高3以外の生徒とも協力してやりたい。いろんな人と協力したい。今は学級の友達と十分に協力している。 ・次は、（中庭に植える）コキアの森のデザインのアンケートを進めたい。

- ・5/12（初期）では、昨年度の成功体験を振り返り、自分の中でのリーダー像を基に友達との協力について考えている様子が確認された。
- ・6/13（中期）では、プロジェクトの進行が円滑に進んでおり、壁（うまくいかないこと）があつても切り抜けられていることを感じている様子が確認された。一方で、「リーダーとして全員を見るのは難しい」という気づきが確認された。
- ・7/22（終期）では、生徒 A は「みんなが自分の役割を分かっているし、それに応じた行動をしていた」という発言していることから、友達の力を認めており、プロジェクトに向けて任せても良いと実感していると考えられた。
- ・以上の内容から、生徒 A は、学校と地域での学びのサイクルの中で、自分の中で実現したいリーダーとしての在り方を考え、友達への言葉掛けや自身の態度を変えていく必要性に気付いたのではないかと推察された。また、7/14 に実施した校外学習②では、市役所の職員からプロジェクトの進め方に関して「去年よりもいろんなことをやっていると思いますが、みんなで1つのことをやっているのか？」、「やることが増えていくと、分かれて進めるといいと思う」と、アドバイスをいただいていた。地域の人からの助言を聞き、生徒 A の協力に関する考え方が変化した可能性が示唆された。

2 振り返りワークシート（内的な変化）について

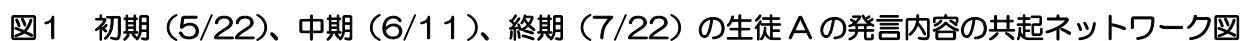
授業の終わりに実施した振り返りシートの数値の変化を下図にまとめた。

表3 生徒Aの振り返りシートの数値の変容

振り返りシート(生徒A)	5月15日	5月22日	5月28日	6月2日	6月4日	6月11日	7月22日
①自分たちの活動は、 市や学校周辺の地域にどのくらい役に立っていると思いますか？	5	8	9	9	9	9	10
②自分が今日の授業で、友達の役に立てたと感じますか？	2	9	8	9	9	9	10
③あなたは学校周辺の地域や、 市のことが好きですか？	10	10	10	10	10	10	10
④自分がもっている力を発揮できたと思いましたか？	7	7	8	8	8	10	10
⑤自分がこのプロジェクトに関わり、楽しいと感じましたか？	10	10	10	10	10	10	10
⑥自分たちがやっているプロジェクトは、 市を良くすると思いませんか？	9	8	8	8	9	9	10

- ・振り返りシートの①②④について、段階を追うことに数値が上がっていた。①②は5/22に数値が上がり、④は6/11をきっかけに上がった。
- ・5/15の授業は、学級全体で今年のプロジェクツのテーマを考える内容である。生徒Aは「地域貢献というテーマは大きい」と発言している。
- ・5/22の授業については、校外学習①の資料準備を少人数のグループに分かれて行う授業内容である。授業前に、自立活動の指導を生徒Aに実施した。自立活動の学習内容と結果についてはP7～8に記載した。
- ・上記の内容から、学校と地域の学びのサイクルを通して、生徒Aの中で「地域貢献」、「友達の役に立てたという自己有用感」、「自分の力の発揮」に対する自己評価が高まっていることが確認され、自分の思いだけでなく、他者への貢献を基にした満足感を抱くことができていると考えられた。

図1は、初期、中期、終期を複合し、テキストマイニングで分析して作成した共起ネットワーク図である。生徒Aの発言に、学級の全ての友達の名前が出現していることが分かった。生徒B～Hが生徒の個人名で、教師A、Bは6/11の授業で関わった教師名である。



13

4 エピソード記録（内的な変化・外的な変化）について

図1作成に用いた文字データから、友達（生徒B～H）の名前が文単位に含まれる発話内容を抽出した。生徒Aの発言の中に出てきた「友達の名前」を含む文脈から、生徒Aの内的な変化（自分の中で実現したこと）、外的な変化（他者を意識して変化を起こそうとすること）を、以下の基準で整理した。

- ① 思考の整理、提案等→自己内での思考が基となった発言

② 友達の気持ちの確認→他者を意識しているが、協働を依頼していない発言

③ 協働依頼→他者を意識しており、相手に協働を依頼している発言

表4 生徒Aの発言内容（友達の氏名を含んだものを抽出）

日にち	発言内容	生徒Aの気持ち	授業のエピソード
5/22	① 「生徒B、後半でパネル（の説明）は難しいと思うから、フォトスポットについての説明と試作品持っていけるかな」 ② 「自分は生徒Cさんとするけど、生徒Bさんの方にも行く」 ③ 「生徒Cは、コキアの今の状態を見て、こういう感じだよっていうのを、口頭でもいいし、スライドに合わせて説明するでもいいし」 ④ 「俺は生徒Cのも見たいし、これがどうしようかなと思って」 ⑤ 「生徒Dさん一緒にスライド作るか」 ⑥ 「生徒Eさん、何やりたいとか、ある？」 ⑦ 「生徒Eさんと一緒にしてくれるとスムーズにいきそうな予感がするから」 ⑧ 「それは生徒Fに任せる。生徒Hはどうする？」	① 提案【内的寄り】 ② これから自分がやることの報告【内的寄り】 ③ 提案【内的寄り】 ④ 思考の整理【内的】 ⑤ 思考の整理【内的】 ⑥ 友達の気持ちの確認【外的寄り】 ⑦ 思考の整理【内的寄り】 ⑧ 友達の気持ちの確認【外的寄り】	・「地域貢献とは地域の人を喜ばせること」を全体目標として確認し、小グループに分かれて資料作成の準備を始めている。 ・リーダーとなった生徒Aは、役割分担のときに進行し、友達に役割を依頼する。 ・グループを見て回り、友達の準備している様子を確認している。
6/11	⑨ 「生徒Bさん、フォトスポットの方で考えてちょうだい」 ⑩ 「生徒Bさんが今やっているイラストがここ（アクリルパネルの間）に入る感じ」 ⑪ 「コキアのイラストは生徒Bさんが作っている、これ、こんな感じらしいです」 ⑫ 「これはフード班で使わないって、生徒Bさん、それ思ったなって」	⑨ 協働依頼【外的】※初めて出現 ⑩ 教師の質問に対する返答【外的寄り】 ⑪ 教師の質問に対する返答【外的寄り】 ⑫ 友達の気持ちの代弁【外的寄り】	・市役所からフォトスポットのアイデアが良いとリアクションをもらい、試作品を作って具体的なイメージを固めようとしている。 ・必要な物品（アクリルパネル）を使用させてもらうため、教務主任や高

	⑬ 「これは顔はめ難しいよ、生徒 B さん。(アクリルパネルに)穴開けるなんて、うちらそんな技術をもってないから」	⑬ 友達へ提案【内的寄り】	等部主事に相談する。
7/22	⑭ 「生徒 B さんさ、あの、生徒 H も気に掛けてね」 ⑮ 「生徒 G さん、あの、こぎん刺しで調べてくれない？」 ⑯ 「生徒 H は(夏休み中に一緒に苗を植えることを)強制(的に参加してもらう)ってことで」	⑭ 協働依頼【外的】 ⑮ 協働依頼【外的】 ⑯ (間接的な) 協働依頼【外的】	• 学校の中庭に植えるコキアの森という企画について、デザインを友達と検討している。 • 夏休み中の予定を話し合っている。

以下、表 4 より確認された内容である。

- 6/11 の授業で、⑩～⑫の発言は「教師からアクリルパネルを借りたいので、交渉したい」という生徒 A の気持ちが前提としてであると想定する。よって、教師を意識しており、教師にプロジェクトの協力を依頼する姿勢から、外的な発言であるとした。
- ⑯に関しては、生徒 A は昨年 1 人で夏休み中にコキアの苗植えを行い、かなりの時間を要した経験を思い出したことから、特に親しい友達に協力してほしいと思ったため依頼したと考えられる。
- 結果として、発言は友達の氏名を含んでいるが、内的もしくは外的といった 2 分類は難しく、「～寄り」という表記にした。黄色でマークしている箇所は、生徒 A は友達の気持ちを聞いているが、友達に協働を求めているため「外的寄り」として記述した。⑩～⑫の教師に対しての発言は“プロジェクトのために必要な物品が欲しい”という目的があるため、外的寄りではあるが友達に対する発言ではない。しかし、友達のやっていることを認め、他者へ伝えているということがはっきりしている。
- 初期の段階では内的な発言が多いが、終期では外的な発言のみ確認された。プロジェクトの進行とともに、発言の質が内的から外的に移行していることが分かった。
- 表 4 の発話内容の全てが、プロジェクトの目的（地域の人役に立つ）を前提として表出しているため、生徒 A は活動の目的を意識しており、目的達成に向けた発言であった。

5 総合的な探究の時間の評価（生徒 A のエージェンシー発揮につながる姿の評価）について

上記（１）～（４）の結果から、総合的な探究の時間における生徒 A の学習評価を行った。本実践では、生徒 A のエージェンシー発揮につながる姿を、【学びに向かう力、人間性等】の観点における「プロジェクトのリーダーとして、友達と協力しながら活動することができる」によって評価することとしていた。生徒 A は、リーダーとして他者への協働依頼をするなど、友達と協力してプロジェクトを進めることができた」と評価した。また、協働依頼をする生徒 A の姿が確認されたのは、実践終期であった。

評価の観点については、実践グループメンバーで検討し、「達成できた」、「一部達成できた」、「達成できなかった」の 3 段階で評価した。

【総合的な探究の時間における目標と評価】

【知識・技能の目標】

地域や学校の課題を発見し、課題解決に必要な知識及び技能を身に付けることができる。

【生徒 A の目標】

市役所の職員や地域の方と関わる中で地域貢献活動の内容を見出し、実現するために必要なことを考え、活動することができる。

【生徒 A の目標に対する評価】・・・達成できた

授業内において、市役所の職員から提案のあった「霊園」というキーワードが出現していることから、生徒 A は地域から必要な情報を受け取り、本来の霊園の目的は異なり「植物を提供して喜んでいただく」ということに置き換えていることから、自分事として捉えていた。

市役所や公共施設からアドバイスや提案の意味を理解し、安全面に配慮した再提案に同意してプロジェクトを進めることができた。生徒 A の発言内容の中に地域名が入っていた。

企画書の作成のときは、試作品を作り、具体的な長さや必要な物品などを整理して記載する必要性が分かり、タブレット端末で調べたり、教師に交渉したりすることができた。

【思考・判断・表現】の目標

情報を整理・分析して、簡潔にまとめたり、表現したりできる。

【生徒 A の目標】

説明資料やスライドを、相手に伝わりやすいように工夫しながら作成することができる。

【生徒 A の目標に対する評価】・・・達成できた

プロジェクトのリーダーとして、活動目的や内容の背景が見えるように工夫しながら説明スライドを作成した。校外学習①と②で、生徒 A は実際に資料を掲示しながら、コキアの生育に関することやプロジェクトの進捗状況などを市役所の職員や商業複合施設の社員に伝えることができた。

最終的には市役所の職員や商業複合施設の社員へ作成資料を配付し、内容を伝えることができた。

【学びに向かう力、人間性等】の目標

課題に対して、主体的、協働的に問題解決や探究活動に取り組む。

【生徒 A の目標】

リーダーとしての役割を考え、友達と協力しながらプロジェクトを進めることができる。

【生徒 A の目標に対する評価】・・・達成できた

役割分担の場面では友達の気持ちを聞いたり、プロジェクトの話合いのときは特定の生徒に対して「依頼」の言葉掛けをして協働を呼び掛けたりしながら、学級の友達と一緒にプロジェクトを進め、成功を感じることができた。

6 自立活動の授業記録（生徒Aのエージェント性発揮につながる姿との関連の検証）について

全体で話し合い活動を実施する授業日の朝の自立活動の授業で、生徒Aに対し、人間関係の形成やコミュニケーションに関する指導を行った。以下、録音した音声データと教師の観察を基に作成した授業記録である。

日程・内容	発言内容
5月22日	教師「今回の総合のテーマを聞いて、どんなふうに感じている？」 生徒Aの発言 ・「今年の総合の高等部のテーマは「地域貢献」と聞いて、昨年に比べてプロジェクトのテーマが大きいと感じた。」 ・「リーダーは喜んで（僕が）やります。」 教師「協力することについては、どう思っている？」 生徒Aの発言 ・「<u>（学級の友達で）どの人が、どういうことができるのか、僕は分からない。</u>」 ・「<u>（友達から）やりたいことを自分から話してほしい。こっちから言ったとして、相手が本当にやりたいのか分からない。</u>」 ・「<u>自分は態度が悪いリーダーかもしれない。リーダーとして、勉強中だ。</u>」 ・「<u>（友達の得意な部分を書かれた紙など）それを見れば、その人に合った役割をお願いすることができます。</u>」 ・「<u>みんなに任せた方がいいのは分かっているのだけれど、忙しいときは、1人1人に説明する時間を考えると自分でやった方が早い。</u>」 教師「もし、友達がプロジェクトでやってみたい役割が分かったら、協力できそうだと思う？」 生徒Aの発言 ・「はい。」 →実践者が、事前に同じ学級の友達（生徒B～H）にアンケートをとっていた、やりたい役割や希望についての回答を生徒Aに伝える。 ・「<u>生徒Cさんが、コキアの世話を担当したいこと、知らなかった。</u>」
5月27日	教師「今日の自立活動は、相手と話し合いをするときに、意見が割れたときに物事の中立をとる練習だよ。リーダーは双方の意見をまとめていく立場。」 教師「人には背景があって、同じ経験をしている人はいないし、同じ感情の人は誰一人いない。その人の背景をどれだけ思っあげられるか、それがリーダーに大事な資質であると思う」 教師「昨年と同じやり方でいこう、とリーダーが考えていても、みんなが賛成と思っているとは限らない」 教師「友達に、考えを話してもらおう。どんな質問の仕方がいいかな？」 ※最初に教師から知識をインプットする。 生徒Aの発言 ・「<u>（タブレット端末で調べながら）ビジネス枕詞やクッション言葉が出てきました。</u>」 ・「<u>自分は効率が良いと思うから、自分から意見言って！とみんなに言ってしまうけど、でも迷いもあるんだけど、どっちがいいかな。</u>」

	教師「テクニックとして大人も使っている。クッション言葉などは、お互いが気持ち良くいられる話し方です。今日は何が一番、心に残った？」 生徒 A の発言 ・「自分はぶっ刺しぶっ刺し言葉だから、クッション言葉かな。」
6月5日	※6/2 校外学習①の振り返りで、プロジェクトを進めるときに2つの方向性に分かれる可能性が出てきた（①自分たちが考えたアイデアで地域貢献する、②市役所の職員の提案をヒントに地域貢献する）。 学級の生徒が8名であることから、分担して①②の活動を進めていくことについて話し合った結果、前時で①に7名、②に1名と、学級内で意見が偏った。午後の話し合いでは、これからどのように①と②を進めていくかを検討する予定であることを生徒Aに伝え、自立活動の学習を始めた。 教師「生徒Aさんとしては、これからどういうふうにプロジェクトを進めていきたい？」 生徒 A の発言 ・「<u>①も②も、両方のチームを（リーダーの）自分が見るのが良いと思っている。</u>」 ・「生徒Dさんが1番最初に②に決めたから、次に生徒Cさんが先に①のチームに行っちゃって、どんどんバランスが悪くなって。」 →生徒Aの表情が曇る。話し合いがうまく進まなかったことに対し、落ち込む様子を見せる。 教師「あなた（生徒A）が、見えていないみんなの気持ちを把握しようとしているところは素晴らしいね。」 生徒 A の発言 ・「自分は、両方のチームの作業に対応できると思った。」 ・「<u>②は生徒Dさん1人しかいないから、できないと思う。</u>」 ※2つの方向性のうち、ほぼ1つの方向に友達が向かおうとしていることについて、生徒Aに課題を提案した。 教師「市役所の方は、『誰かと誰かの“つながり”が大事だと思っています』と発言していたね。先生たちがこっち（②の市役所の人からの提案の方が）少ないから来てほしいなと説得するのではなく、リーダーがうまく友達に気付けさせるような関わりをしてみてください。」 生徒 A の発言 ・「無理ですよ。」 →机に顔を伏せ、表情が曇っている。教師の提案に納得していない様子である。 ・「説得材料が必要。自分は②を経験したことがないから、その楽しさとか、例えて友達に伝えるのは難しい。」 ・「自分が経験していないのに、具体的な内容を（友達に）伝えるのは難しい。」 ・「わざわざ①②を分担しようとするから、こんな大きな話になった。みんなで（一斉に）どっちもやるのはどうか。」→教師に反発する様子が出ている。

教師「それも1つの案だよ。大事なことは『①も②も、両方大事だよ』というのを伝えることだと思う。枕詞で伝えるのはどう？『みんなの間は考えてくれてありがとう』と伝えるとか。」

生徒 A の発言

- ・「はい、わかりました。」→不本意ではあるが、了承した様子である。

○授業後の様子

生徒Aは教師の提案に納得していない様子で終わった。その後、学級で話し合い活動を行うと、生徒Aは別室に移動し机に伏して参加できなかった。学級に残った生徒B～Hは、学級の意見が分かれている状況でプロジェクトを進めることや、リーダーである生徒Aの気持ちを察して、自分の希望とは別の選択に変更する生徒が数名現れ、生徒Aが教室に戻ったときには学級の意見が1つに収まった。話し合いが終わると生徒Aは教室に帰ってきて、「みんなの意見を1人ずつ聞きたい」と教師に訴えたため、教師から友達が発言していた内容を伝えたところ、話し合いの結果に納得した表情を見せた。

- ・5/22は、教師からの「協力することについては、どう思っている？」と問いに対し、生徒Aは「(学級の友達で) どの人が、どういうことができるのか、僕は分からない」と発言していた。また、「もし、友達がプロジェクトでやってみたい役割が分かったら、協力できそうだと思う？」という問いに対して、「はい」と答え、教師が友達の気持ちを伝えると「生徒Cさんが、コキアの世話を担当したいこと、知らなかった」と発言していた。このやりとりから、自立活動の時間において、教師が友達との間をつなぐことで生徒Aの中で他者への【気づき】が生じたことが確認された。
- ・5/27は、リーダーの役割として、「友達に考えを話してもらおう。どんな質問の仕方がいいかな？」と問い掛ける教師に対し、「自分は効率が良いと思うから、自分から意見言って！とみんなに言うけど、でも迷いもあるんだけど、どっちがいいかな」と答えていた。5/22は「みんなに任せた方がいいのは分かっているのだけれど、忙しいときは、1人1人に説明する時間を考えると自分でやった方が早い」と発言していたが、自分が考える効率の良さや友達の尊重の間で揺れ動く生徒Aの心情が読み取れた。これは、自分の中で実現したいこと(内的)と他者を意識して起こそうとする変化(外的)の間で【葛藤】している様子だと推察された。
- ・6/5は、校外学習の振り返り(6/2)で2つの方向性が見出された中で、意見の偏りを受け、「①も②も、両方のチームを(リーダーの)自分が見るのが良いと思っている」という内的な発言があった。また、「生徒Dさんが1番最初に②に決めたから、次に生徒Cさんが先に①のチームに行っちゃって、どんどんバランスが悪くなって」というように、自分の思いと周囲の思いのすれ違いを感じている様子が確認された。一方で、「②は生徒Dさん1人しかいないから、できないと思う」という発言も見られ、うまくいかない状況においてもリーダーとして他者への【配慮】をしていたのではないかと考えられた。その後は、気持ちの調整のためプロジェクトの話し合いに参加できなかったが、学級に残った生徒B～Hは、学級の意見が分かれている状況でプロジェクトを進めることや、リーダーである生徒Aの気持ちを察して、自分の希望とは別の選択に変更する生徒が数名現れ、生徒Aが教室に戻ったときには学級の意見が1つに収まった。そして、「みんなの意見を1人ずつ聞きたい」という友達の気持ちを意識した発言が確認された。この過程から、生徒Aは、友達の支えから、【協力】の意識が高まったのではないかと考えられた。

以上の結果から、自立活動の指導は、他者への【気付き】を生じさせ、内的変化と外的変化の中で【葛藤】する時間となりながらも【配慮】をすることができる生徒Aの姿につながったと考えられた。また、総合的な探究の時間での話合いで支えてくれた友達の思いを受け、【協力】へと意識が移行していったのは、この自立活動の指導と結び付いた結果であり、「プロジェクトのリーダーとして、友達と協力しながら活動することができる」という、生徒Aのエージェンシー発揮につながる姿との関連が示唆された。

本研究の1～6の分析結果から、生徒Aは学校と地域での学びのサイクルを通して、自己評価の高まりとともに、他者と協働するリーダーとしての在り方を模索し、段階的に変容していったことが明らかになった。インタビューやワークシートからは、地域貢献や友達の役に立てたという自己有用感の高まりが確認された。一方で、テキストマイニングやエピソード記録からは、仲間全員や地域資源を巻き込みながら、生徒が起こそうとする変化が、内的な変化（自分の中で実現したいこと）から外的な変化（他者を意識して変化を起こそうとすること）へと移行し、友達に働き掛ける姿が見られた。これらの過程を経て、総合的な探究の時間の評価においては、リーダーとして友達と協力してプロジェクトを推進する姿が終期に確認され、生徒Aのエージェンシー発揮につながる姿として評価された。また、総合的な探究の時間と結び付けて実施した自立活動の指導と、生徒Aのエージェンシー発揮につながる姿との関連性が示唆された。

V 考察と今後の課題

生徒Aのエージェンシー発揮につながった要素として、以下の3点が考察された。

1 達成感を感じられる支援

生徒Aのエージェンシーにつながる姿が発現した（協働依頼が増えた）背景には、これまで単独で進めてきたプロジェクトに比べて「学級のチームワークとしてはとても良かった。過去最高である」（5/22の発言参照）といった本人の想定を上回る成果や体験があったことが考えられる。今回の成功体験が、他者との協働を求める動機になったと推察される。

このように、生徒が主体的にプロジェクトを進める中で、円滑な進行を促すために教師が行った支援は、以下の2点にまとめられる。

1点目、生徒Aがリーダーとして他の生徒に分担した役割を、それぞれが最後までやり遂げられるよう、サポートした。生徒自身で解決が難しい課題について、事前調整を行い、その上で、「自分たちの力で達成できた」と実感できるような言葉掛けやサポートを行った。

2点目、プロジェクトの目的である地域貢献（＝地域の方々に感謝されること）を実感できるよう、市役所や商業複合施設などで実際に感謝される場面を意図的に設定した（P10「職員からのコメント」より）。

これらの支援は、生徒が「教師の手を借りた」と感じないように配慮して実施されたものである。生徒Aは、教師の支援に支えられながらもリーダーとしてプロジェクトをよりよい方向へ導いたという実感を得ることで、達成感を伴う協働の経験を積むことができた。この経験が、生徒Aの協働性が高まる契機となったと考察する。

2 地域とのつながりの維持

生徒Aの振り返りシートの内容から、項目①「地域にどのくらい役に立っていると思いますか？」の設問の数値が、初期から終期にかけて高まっていった。振り返るためには目標が必要で、その目標は「地域貢献活動＝地域の人から“ありがとう”と言われること」というテーマのもと、地域との学びのサイクルの中で設定されていった。5/22の1回目の自立活動で、生徒Aは「地域貢献プロジェクトは（昨年と比べて）テ

マが大きい」と話し、地域に貢献したという実感が薄い状態のスタートであったと推測する。そこから、徐々に数値は伸びていることから、目標の達成を実感していることが分かる。

加えて、項目②の「友達の役に立てたと感じますか？」の協力に関する設問や、項目④の「自分の力を発揮できましたか？」の設問も数値が高まっていた。リーダーである自分がやるべきことの中に、友達に対する働き掛けが意識された結果ではないかと推測する。

7/22 のインタビューでは、「学級のチームワークとしてはとても良かった。過去最高である」と答えていることから、生徒Aは友達の支えを感じていることが確認され、また、生徒の思いを受け取り、提案をくれた地域の人々の存在がいたことが分かった。これは、友達や地域の人々との協働が、生徒Aのエージェンシーに作用した結果であると考えられた。この構造を生み出した学校と地域でつなぐ学びのサイクルは、地域の人々からの助言や感謝の言葉が生徒Aの自己有用感を高め、学級内での主体的な行動へとつながったと考えられ、生徒Aのエージェンシー発揮につながる基盤となっていたと考察する。

この結果から、教師がプロジェクトベースで学習活動を設計し、生徒の実態や思いを捉えながら、地域とのつながりが維持されるように学びのサイクルを展開したことが、生徒のエージェンシー発揮につながる要素になったと考えられた。

3 自立活動との関連付け

プロジェクトの初期段階（5月末～6月中旬）にかけて、生徒Aに対して自立活動の「人間関係の形成」に関する指導を行った。学びを実践できるように、全体的話し合い活動を計画的に取り組んできた。

7月は自立活動の指導で人間関係やコミュニケーションに関する指導は行わなかったが、7/22 の発言から、生徒Aが自発的に協働を依頼している様子が見られた。このことから、自立活動での学びが対人関係の基礎となり、プロジェクトの中で主体的に人と関わる行動へとつながっていったと考えられる。

また、生徒Aにとって想定しやすい状況を話し合いの場で設定したことで、実体験を通して必要な技能を身に付けることができた。加えて、自立活動で具体的な目標設定を提示したことで、本人も取り組みやすかったと推察される。

そもそも、プロジェクトの目標を「地域の人たちの役に立つ＝“ありがとう”と言われること」と設定していたため、生徒Aは地域の人から感謝される体験を通して、「地域貢献できた」という実感を得ることができた。

その背景には、教師がプロジェクトの進行において、生徒たちが「役割分担」の重要性に気付けるように介入し、友達と協働する学習活動を設定したことがある（5/22 の授業）。当初、生徒Aは消極的に友達に協力を求めているが、地域の人から感謝され、プロジェクトを成功させた経験を通じて、新しい進め方を学ぶことができた。

さらに、「自分1人ではなく、仲間と役割を分担しながら進めることで成功できた」という達成感を得られた。このことから、「役割分担＝協力」という意識が生徒Aに芽生え、エージェンシー発揮につながったのだと考察する。

4 まとめ

本実践の目的は、学校と地域を学びの場とした学習サイクルを通して、高等部生徒のエージェンシー発揮につながる要素を見出すことであった。本実践を通し、「達成感を感じられる支援」、「地域とのつながりの維持」、「自立活動との関連付け」の3点が確認され、生徒Aのエージェンシー発揮につながる姿を引き出していた。

5 今後の課題

プロジェクトを進める中で地域の方から協力が難しいと返信が来た場合に、生徒は自分たちの提案が却下されたことを事実として受け入れているが、今までつながってきた地域との関係に対して消極的な考えをすることが分かった。

今回の実践では、教師の介入のもとで再びつながりを保つような働き掛けを生徒に行ったが、つながりを生徒自身が維持していこうと思えるような提示の仕方や、働き掛けの工夫が必要であると感じた。考察で述べたように、学校と地域の学びのサイクルを積み重ねることは、地域からの外部評価を受け取る重要な機会となり、生徒のエージェンシー発揮に寄与する過程として有意義である。できるだけ生徒たちが主体的にプロジェクトに取り組んでいるという実感をもちつつ学習を積み重ねていけるように、教師の主導者の調整やファシリテーションの技術の向上が課題である。

VI 参考・引用文献

- ・樋口耕一 (2018). KH Coder 3: : Quantitative Content Analysis or Text Mining Software . <http://kncoder.net/>.
- ・OECD (2019)「2030 年に向けた生徒エージェンシー」.Future of Education and Skills 2030/2040. アップロード日不詳.
<https://www.oecd.org/en/about/projects/future-of-education-and-skills-2030.html#resources>, (2025 年 9 月 26 日閲覧).
- ・白井俊 (2020)OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来 エージェンシー、資質・能力とカリキュラム. ミネルヴァ書房, 86 頁.
- ・文部科学省 (2018) 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説「総合的な探究の時間編」. 文部科学省, 学校図書株式会社, 6 頁, 12-13 頁.